

平成23年度下半期における医療事故等について

医療の透明性と県民の医療に対する信頼の一層の向上を目指し、医療現場における安全確保に資するため、平成23年度（下半期）に発生した栃木県立病院における医療事故等について、公表いたします。

1 レベル別件数

レベル	内 容	件 数		
		岡本台病院	がんセンター	とちぎリハビリテーションセンター
0	エラー(※1)や医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	5	100	25
1	患者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない。）。	95	221	160
2	処置や治療は行わなかった（患者観察の強化、バイタルサイン(※2)の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。）。	51	283	10
3 a	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）。	8	94	6
3 b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）。	4	3	1
4 a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。	0	0	0
4 b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。	0	1 (※3)	0
5	死亡（原疾患の自然経過によるものを除く。）	0	0	0
計		163	702	202

※1 ある行為が、①行為者自身が意図したものでない場合、②規則に照らして望ましくない場合、③第三者からみて望ましくない場合、④客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を「エラー」という。

※2 血圧、脈拍、呼吸など

※3 後日、転送先病院で死亡。

2 事象別件数

事 象	内 容	件 数		
		岡本台病院	がんセンター	とちぎリハビリテーションセンター
薬 剤	注射、点滴、内服薬など	34	219	68
輸 血	血液検査、輸血など	0	14	0
治療処置	手術、麻酔、処置など	0	37	5
医療用具	医療用具、医療機器など	1	13	1
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	1	108	0
検 査	採血、撮影など	1	79	3
療養上の場面	転倒、転落、給食、栄養など	79	160	105
そ の 他		47	72	20
計		163	702	202

((財)日本医療機能評価機構による分類)

### 3 代表的事例及び対応策

事象	代表的事例	対応策
薬剤 (調剤)	【レベル1】 名称が似ている別の薬剤や規格を間違えて調剤し、患者さんへ交付したが、服用前に誤りに気がついた。	薬品棚の配置や表示の工夫により取り違え防止を図るとともに、取り揃えた薬品を再確認する際に薬品名、規格の確認を徹底した。
薬剤 (与薬)	【レベル2】 患者が誤ってプラスチックシートに入ったまま錠剤を飲み込んでしまい、便と共に排泄された。	プラスチックシートを1錠毎に切り離して患者の元に配薬しないこととし、内服、配薬時は、患者が飲み込むまで確認することとした。
治療 処置	【レベル3 a】 腹部に皮下注射後、通常の圧迫時間と止血法では止血できず、圧迫止血を強化したが皮下血腫を生じた。患者は、ワーファリン（抗血栓薬）服用中であったことが判明した。	出血に関する抗血小板薬、抗凝固薬などのハイリスク薬服用情報は、患者を交えて確認し、医療者間で情報を共有するためカルテに記載することを徹底した。また、外来時に服用薬鑑別を行い、処置や手術を行う前に服用を中止する必要がある薬剤を把握する試みを開始した。
検査	【レベル1】 処置前に飲水が禁止されているにもかかわらず処置を行う直前に患者が飲水してしまい、処置が延期となった。	患者に処置の内容を理解いただくよう、繰り返し丁寧に説明することとした。
療養上 の場面 (食事)	【レベル3 b】 昼食に提供したライチによる誤嚥（ごえん）で、意識消失・呼吸停止に至ったが、速やかな救命措置により回復した。  ※誤嚥（ごえん）とは、本来は食道を通して胃の中に入らなければならないものが、誤って気管内に入ること。	提供する食品や形態を、ライチも含め全体的に再検討し、提供が好ましくない食材にライチを加え提供しないこととした。また、食品、食材によっては、注意書きのカードを添え注意を促すこととした。
療養上 の場面 (転倒)	【レベル4 b】 深夜、病室内で患者が転倒し、頭部を床に強打した。緊急CT検査後、集中治療室に搬送したが、意識低下及び外耳道からの出血が続き、大学病院へ緊急転院となった。  ※後日、転院先で死亡した。	患者の転倒リスクを評価する際の内容の再検討を始めた。また、転倒の可能性が高い患者には、床に衝撃吸収マットの使用を徹底することとし、さらに、不可抗力で発生する事案にも速やかな救命体制をとれるよう、緊急コール体制を見直すこととした。

今後とも、安全な医療を提供するため積極的に事故防止対策に取り組み、県民の皆様にご信頼される県立病院を目指して努力してまいります。